

福祉環境委員会記録

令和7年4月21日（月）
12時30分～12時58分
全員協議会室

【委員】三浦委員長、肥後副委員長、
柳楽委員、串崎委員、上野委員、布施委員、川神委員
【事務局】久保田書記

議題

- 1 取組課題について（委員間で協議）

- 2 その他
 - (1) 地域井戸端会での委員会報告内容について

 - (2) 委員会の所掌事務について

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

〔 12 時 30 分 開議 〕

○三浦委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。

1 取組課題について

○三浦委員長

当委員会における令和7年度の取組課題として、「中山間地におけるエネルギーシフト」をテーマに進める方針としている。

本日は、テーマや具体的な調査方法について協議し、委員会としてどのように対応していくか方向性を共有し決定したい。

肥後副委員長から、計画案について説明をお願いする。

○肥後副委員長

後半の福祉環境委員会の環境施策に関する計画として、たたき台を作成した。

福祉環境委員の市の環境施策に対する共通理解を深めることで、行政として住民と一緒にあってより深く取組を進めたい。現状認識では、環境問題を日々ニュースで聞かない日はないぐらい。委員長と協議していて、住民や委員の関心及び議論が十分ではなく、環境問題の施策について学び、委員で認識を共有する必要があるという意見になった。

主な取組内容、時期及び詳細は確認してもらったと思う。カーボンニュートラル推進室に依頼をし、市の環境関連計画についてレクチャー、説明を5月中に開催したい。

具体的には浜田市地球温暖化対策実行計画、事務事業編及び各区域施策編の2編について、何が市として問題であり、何に取り組まなければならないのか。そのためにはどうしていくべきで、何が現状でボトルネックとなっているかをカーボンニュートラル推進室と共有したい。留意事項として、この計画は現時点での案。委員会での協議や学びを深めることにより、まず市民に理解されるかについての観点を常に持ちながら施策の検討を進めていく。

中山間地域におけるエネルギーシフトを題目として上げているが、ここまで一気に進めるのはかなり困難であると考えているが、今後取り組んでいかなければならない。それに関連して、自ら学び住民に理解を求めるような施策が必要ではないかと思う。まずは理解することを最優先にと思っている。

○三浦委員長

副委員長から説明があったように、まず全体の把握。当初の中山間地域におけるエネルギーシフトを意識し具体的な事業にフォーカスし、それに関する先進事例を視察しながら進めていきたい。

ここで、今年度の委員会開催予定を共有したい。5月29日木曜日の午前10時から全

員協議会室、6月23日月曜日の全員協議会終了後から第2委員会室、7月2日水曜日の午前10時から全員協議会室、8月5日火曜日の午前10時から全員協議会室、9月1日月曜日の全員協議会終了後から第2委員会室、10日水曜日の午前10時から全員協議会室、このほか定例会議に合わせた委員会以外に議員間で協議する事項があった場合など必要に応じて委員会を開催する。このスケジュールも踏まえながら、計画案や進め方について皆の意見を伺いたい。

○布施委員

当市はゼロカーボンシティを表明しているが、環境問題及び脱炭素に向けた取組について、先日BSで福井県敦賀市の中山間地域の取組をしていた。総務文教との関連もあるが、再生可能エネルギーを作るのに中山間地域における取組の中で、物の配送のためにトラック輸送あるいは自家用車を買わなければならない従来ガソリンを使っていたところを、ドローンを使った配送により再生可能エネルギーを使える。

再生可能エネルギーを利用した部分について、ドローン配送も合わせた取組をすれば非常に面白いと思う。

○川神委員

エネルギー問題及び環境問題に関しては以前から取組課題としていて、市民はもっと温度差があると思うので、このような形で委員間の共通認識を持ち市民との意見交換をできたらと思う。循環共生社会協議会長が、協議会設立時に、このゼロカーボンがなかなか進まない背景があり行政もいろいろ手をこまねいている。さらには、具体的に掲げた方がいいが行動が起こっていないことを案じ、それがきっかけになり循環共生協議会ができた経緯があると話されていた。協議会のメンバーとも意見交換会を開催したい。ある程度、委員間の共通認識を持った時点で外部との意見交換を行うことによりブラッシュアップしていき、委員間だけで完結ではなく市民あるいは団体との意見交換を進めていくことが望ましい姿と思う。

○串崎委員

5月の担当課からの説明について、どこまで勉強するのか、また時間もあまりなくスケジュール管理も大変だと思うが、担当課も含め調整を早めをお願いしスタートしたいと思う。

○柳楽委員

本来であれば2年間ぐらいかけ一つのテーマをやるのが理想的であると考えているが、今回は当初に二つのテーマを決めた。限られた時間の中である程度何をするのかを絞り込まないと、広範囲になってしまいまとめるのが難しくなるように思う。執行部の現状がどのようなものかを聞き取り、優先的にやっていくことを決めることが必要。

○上野委員

中山間地域のこともよくまとめてある。中山間地にいると、足りないと思うこと及び無駄であると思うことが多くあるが、進めていく段階で、そのような課題も言っていきたい。

○三浦委員長

テーマは、当初から設定していたので理解してもらっていると思うが、一定の結果を出していくために今後テーマを絞り込んで進めていく。

執行部の現状を把握することに加え、テーマ設定後になると思うが、活動している市民と具体的な議論ができるよう進めていく。布施委員から紹介があった先進事例も参考にしながら、中山間地域におけるエネルギーシフトというテーマを意識し議論する流れで進めていきたいが、いかがか。

(「異議なし」という声あり)

それでは、引き続きよろしくお願いします。

早速だが、カーボンニュートラル推進室とのヒアリング開催の候補日について、次回の委員会後、あるいは5月13日議会改革推進特別委員会前の午前中か、どちらかとしたいと思うが、いかがか。

(「29日のほうがいい」という声あり)

それでは、5月29日木曜日で、環境課及びカーボンニュートラル推進室へ依頼をしたいと思うが、よろしいか。

(「異議なし」との声あり)

この内容で依頼する。

2 その他

(1) 地域井戸端会での委員会報告内容について

○三浦委員長

5月7日から地域井戸端会を開始する。委員会の報告事項について、事前に情報共有を図りたい。

冒頭に各常任委員会の活動報告を行うことになっており、各委員会3分程度。はまだ議会だよりV o 1.77に掲載されている「令和7年度当初予算の注目事業」を中心に新年度事業の説明を行い、政策提言など福祉環境委員会の活動も簡単に報告をお願いする。委員間で共有しておきたい内容があれば、正副委員長か書記へ伝えてもらえれば、LINEWORKSなどで共有を図りたい。

はまだ議会だよりV o 1.77を参照しながら、各担当地区の説明及び報告をお願いする。市民からの声を直接伺うことのできる貴重な機会なので、積極的な意見交換をお願いします。

(2) 委員会の所掌事務について

○三浦委員長

令和5年度の改選時に議会運営委員会の申し送り事項として、「改選後の常任委員会において、現行の所管が適切かどうかを各委員が常に意識し、必要に応じて議会運営委員会において、見直しの調査及び審議していただきたい」とあり、各委員においては、これまでの委員会を通して感じていることがあると思う。

特にこの議論の中で出ていたのが、福祉環境委員会が所管している「子ども」に関する事項が総務と一元的に協議できない状況について、執行部では福祉部局の職員が教育委員会にも席を置き連携を図るという対策が取られているが、議会では総務文教委員会の議案数を他常任委員会と比したときのバランスといった様々な意見があったが、本日は当委員会に関わる部分について委員の皆さんの意見を聞き共有を図り、委員会としての意見をまとめたい。

○布施委員

総務文教委員会の「幼児部分」について、福祉環境委員会でどうか、水道は建設や工事の部分があるので産業建設委員会ではどうかという意見があった。また、執行部の考えをある程度聞いた上で判断もしなくてはいけないと思う。

同じ会派から総務文教委員会へ2人出ているが、人数が少なく議案が多いとかも聞いていない。

委員会として分けるときには、変更しても今までどおりでも構わない。

○柳楽委員

前に検討しているときに意見を出したとおり、子どもに関わる部分は同じ所管がいいと思う。こども計画の策定など、学校へアンケートの依頼をする際にきちんと関わっていけるようになると思うので、教育の部分を福祉の方へ移行したい。

○串崎委員

教育関係は当委員会、水道も産業建設委員会へという流れがいいと感じている。布施委員が言われたように別に問題はないということも承知しており、10月から新しい議員構成になることもあるため、強引に進めるのはどうかと感じており無理のないように進めたい。

○上野委員

串崎委員が言われたように、分かりやすくなるようにしていくのがいい。

○川神委員

難しい問題であり、以前は文教厚生委員会があった時期もあり組み替えながら望ましい形にしてきたといった経過があるが、例えば陳情のボリュームなど実際ボリュームの問題は否めない。所管範囲について、ある程度バランスを取るといった考え方もあり、他委員会と業務分掌を見直すということも必要。

水道は、以前簡水があったため当委員会の所管になっているが、簡水が法律的に撤廃をされ上下水道のみとなった。工事関係のところは結構大きく、下水道も含め工事をどのような路線で行うのかなど、環境問題の関連と合わせ産業建設委員会へ移っていくというのが本来の流れであると感じており落ち着きもいい。

教育に関しては、改めて子どもの教育の視点から福祉へ組み替える考え方も悪くなく福祉環境委員会に持ってくるのも一つの方法だと思うが、何が課題でどうなるのか少子化がどこまで進むのかなどはこれからだが、福祉で教育を扱うことに違和感はない。

○肥後副委員長

布施委員、川神委員の言うとおりに変えることも大変であると分かった。なぜ上下水道部が福祉環境委員会なのかと以前から疑問に思っていた。説明があったように簡易水道は国からの通知で上水道へ統合された。水道は公共料金の範疇であり福祉環境委員会とも言えるが、上下水道の工事に関しては必ず産業建設委員会にも連絡及び相談がある。上下水道関係は、管轄として産業建設の方が件数的にも多いので組み替えるのもいいと思う。

また、教育に関しては、国で一元化され乳幼児の間は福祉環境委員会の所管、児童及び青少年は総務文教委員会と最もらしいが、保育連盟との意見交換会の中で指摘があったが、5歳から子どもの発達状況が少し心配な面について小学校へ当然引き継がれると思うが、庁舎の中でも縦割行政の弊害で担当課が変わってしまい、市議会でも所管委員会が変わってしまう。大きい話になるが、同一の者が苦しんでいるのに委員会の所管が変わるのは、連続性がなく効率的でない。皆の意見にもあったように今すぐ変えるとなると大変な部分もあるので、執行部の思いも十分加味した上で変更することが大事かと思う。

○三浦委員長

皆の意見から現在の常任委員会について各委員会が所掌するボリューム感を捉える側面、社会的背景を考慮しながらフィットしていく形にしていくといった2点で、「水道事業」「子ども」について議論する必要がある。

執行部の機構状況への配慮も含め、このような考え方が合うのか、もう少し具体的に進めてみてはどうか。当委員会として違和感はないという意見も多かったので、今すぐではなく、意見のある程度まとめ総務文教委員会にも情報共有していこうと思うが、いかがか。

(「異議なし」という声あり)

総務文教委員会の正副委員長とも情報を共有し、また今後の進め方について皆にも進捗を伝えながら進めていく。

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

次回の日程について、5月29日木曜日の午前10時から全員協議会室で、終了後に委員研修会を開催予定。

以上で福祉環境委員会を終了する。

[12 時 58 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会委員長 三 浦 大 紀